



TITLE:

<記事>7.業績目録

AUTHOR(S):

CITATION:

<記事>7.業績目録. 瀬戸臨海実験所年報 2006, 19: 22-26

ISSUE DATE:

2006-12-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/179051>

RIGHT:

7. 業績目録

欧文業績

986. Nishi, E., Kato, T. and Hayashi, I. 2004. *Sabellaria tottoriensis* n. sp. (Annelida: Polychaeta: Sabellariidae) from shallow water off Tottori, the Sea of Japan. *Zoological Science*, 21: 211-217.
987. Shirayama, Y. and Thornton, H. 2005. Effect of increased atmospheric CO₂ on shallow water marine benthos. *Journal of Geophysical Research*, 110. C09S08, doi:10. 1029/2004JC002618
988. Ishida, H., Watanabe, Y., Fukuhara, T., Kaneko, S., Furusawa, K. and Shirayama, Y. 2005. *In situ* enclosure experiment using a benthic chamber system to assess the effect of high concentration of CO₂ on deep-sea benthic communities. *Journal of Oceanography*, 61: 835-843.
989. Shimanaga, M. and Shirayama, Y. 2005. Precopulatory mate guarding of interstitial *Phyllopodopsyllus* sp. (Copepoda: Harpacticoida) in Otsuchi Bay, Northeastern Japan. *Benthos Research*, 60: 39-44.
990. Shimanaga, M., Shirayama, Y. and Kitazato, H. 2005. Seasonal patterns of reproductive activities among deep-sea benthic copepod species in the bathyal Sagami Bay, central Japan. *Hydrobiologia*, 533(1): 29-39.
991. Thanh, P. D., Wada, K., Sato, M. and Shirayama, Y. 2005. Effects of resource availability, predators, conspecifics and heterospecifics on decorating behaviour by the majid crab *Tiarinia cornigera*. *Marine Biology*, 147: 1191-1199.
992. Oiso, N., Fukai, K., Ishii, M., Okita, K. and Kubota, S. 2005. Systematic reaction with *Iramo scyphopolyp*, *Stepahnoscyphus racemosum* Komai. *Clinical and Experimental Dermatology*, 29: 673-687.
993. Desai, D., Khandeparker, L. and Shirayama, Y. 2006. Larval development and metamorphosis of *Balanus albicostatus* (Cirripedia, Thoracica); implications of temperature, food concentration and energetics. *Journal of Marine Biological Association of U. K.*, 86: 335-343.
994. Shimode, S. and Shirayama, Y. 2006. Diel vertical migration and life strategies of two phytal-dwelling harpacticoids, *Ambunguipes rufocincta* and *Eudactylops spectabilis*. *Plankton Benthos Research*, 1: 42-53.
995. Watanabe, Y., Yamaguchi, A., Ishida, H., Harimoto, T., Suzuki, S., Sekido, Y., Ikeda, T., Shirayama, Y., Takahashi, M., Ohsumi, T. and Ishizaka, J. 2006. Lethality of increasing CO₂ levels on deep-sea copepods in the western north Pacific. *Journal of Oceanography*, 62: 185-196.
996. Kubota, S. 2006. Hydrozoan fauna of the Nansei Islands. *Proceedings of 10th International Coral Reef Symposium*: 197-201.
997. Kubota, S., Sanpanich, K. and Putchakarn, S. 2006. Notes on high numbers of pearls and blister pearls from *Perna viridis* and preliminary survey of bivalve-inhabiting hydroids in the eastern coasts of the Gulf of Thailand. *Biol. Mag. Okinawa*, 44: 39-44.
998. Miglietta, M. P., Gravili, C. and Kubota, S. 2006. Unique behaviours of the hydroids of *Eugymnanthea* (Hydrozoa, Leptomedusae, Eirenidae) living in the mantle cavity of bivalves. *Thalassia Salentina*, 29: 107-112.
999. Miyazaki, M. and Biliński, S. M. 2006. Ultrastructural investigations of the ovary and oogenesis in the pycnogonids, *Cilunculus armatus* and *Ammothella biunguiculata* (Pycnogonida, Ammotheidae). *Invertebrate Biology*, 125: 346-353.

(第 17 巻の訂正)

967. Kurihara, H., Shimode, S. and Shirayama, Y. 2004. Sub-lethal effects of elevated concentration of CO₂ on planktonic copepods and sea urchins. *Journal of oceanography*, 60: 743-750. (題名の訂正)

邦文業績

546. 西榮二郎・加藤哲哉. 2004. 環形動物多毛類の移入と移出の現状. *日本ベントス学会誌* 59: 83-95.
547. 久保田 信. 2005. 海面を滑走する淡水性アメンボ (半翅目、アメンボ科) の追加記録. *くろしお*, (24): 20.
548. 久保田 信・山田豊隆・武田曜男. 2005. 瀬戸内海に出現した小型のベニクラゲとその初期ポリプ. *南紀生物*, 47(2): 156.
549. 久保田 信. 2005. ベニクラゲ (刺胞動物門、ヒドロ虫綱、花クラゲ目) のクラゲから若いポリプへの水面直下に浮いた状態での稀な若返り. *南紀生物*, 47(2): 190-191.
550. 久保田 信・興田喜久雄・田名瀬英朋・鯉坂哲郎. 2005. フジツボ類と海藻類が着生した生きたマキガイの和歌山県白浜町“北浜”への打ち上げ. *漂着物学会誌*, 3: 45-46.
551. 久保田 信・木村和寛・田名瀬英朋. 2005. 日本海沿岸に新たに漂着したムラサキダコ. *漂着物学会誌*, 3: 47.
552. 久保田 信・岸田拓士. 2005. 和歌山県西牟婁郡白浜町臨海“北浜”におけるヤクシマダカラ (タカラガイ科) の成長貝殻の打ち上げ数の季節変化. *漂着物学会誌*, 3: 48-49.
553. 河村真理子・久保田 信. 2005. 和歌山県田辺湾におけるベニクラゲ (ヒドロ虫綱、花クラゲ目) のクラゲ世代の季節消長. *Bulletin of the Biogeographical Society of Japan*, 60: 25-30.
554. 久保田 信. 2005. 退化しないクラゲ口柄基部より走根を伸張しポリプに若返ったベニクラゲ (ヒドロ虫綱、花クラゲ目) の成熟雄. *Bulletin of the Biogeographical Society of Japan*, 60: 31-34.
555. 足立 文・崎山直夫・久保田 信. 2005. 神奈川県江ノ島湘南港で採集されたヒルムシロヒドラ (ヒドロ虫綱、花クラゲ目、モエリシア科) の成熟クラゲ. *Bulletin of the Biogeographical Society of Japan*, 60: 35-38.
556. 久保田 信・北田博一・水谷精一. 2005. 福島産ベニクラゲ (ヒドロ虫綱、花クラゲ目) のクラゲの生物学的観察. *Bulletin of the Biogeographical Society of Japan*, 60: 39-42.
557. 久保田 信. 2005. 幻のインド産カイヤドリヒドラ類. *かいなかま*, 38(2): 43-48.
558. 的場績・久保田 信. 2005. 田辺市新庄公園の灯火に飛来した甲虫. *KINOKUNI*, (68): 13-21.
559. 檜山嘉郎・久保田 信. 2006. 細長型ココヤシの和歌山県白浜町への漂着追加記録. *漂着物学会会報*, (16): 7.
560. 岸田拓士・田名瀬英朋・久保田 信. 2006. 和歌山県白浜町椿の海岸に漂着したスジイルカ *Stenella coeruleoalba*. *南紀生物*, 48(1): 30.
561. 久保田 信・河村真理子・上野俊士郎. 2006. エチゼンクラゲ (刺胞動物門、鉢虫綱、根口クラゲ目) の和歌山県田辺湾への初出現. *南紀生物*, 48(1): 57-59.
562. 久保田 信. 2006. ボラは何回までの連続したジャンプができるか? *くろしお*, (25): 5

563. 久保田 信. 2006. 日本の唄の歌詞に登用された海岸性鳥類. くろしお, (25): 7-12
564. 久保田 信. 2006. 和歌山県白浜町の海岸道路で最近事故死したニホンテン. くろしお, (25): 15.
565. 久保田 信・岡部剛機. 2006. 海洋生物が日本の唄の歌詞に登場する曲: 2006年追加曲. くろしお, (25): 17-18.
566. 久保田 信・山口一夫・岸田拓士. 2006. 和歌山県田辺湾に迷入したシワハイルカ(マイルカ科)と推定されるイルカの記録. くろしお, (25): 19-20.

著書

- 白山義久. 2005. 水の生物(小学館の図鑑 NEO), 191頁. (共著), 小学館, 東京.
- 久保田 信. 2005. 刺胞動物・有櫛動物. 水の生物(小学館の図鑑 NEO), 小学館, 東京, pp. 20-29.
- 加藤哲哉. 2005. 環形動物ゴカイ、ミミズ、ヒルの仲間. 水の生物(小学館の図鑑 NEO), 小学館, 東京, pp. 93-96.
- 久保田 信. 2006. 「宝の海から - 白浜で出会った生き物たち」. 233頁. 不老不死研究会、白浜町、和歌山県.
- 久保田 信. 2006. 「クラゲのふしぎ」 海を漂う奇妙な生態. 255頁. (共著), 技術評論社, 東京.
- Rigby, P. R., Kato, T. and Shirayama, Y. 2005. Chapter II.4. An introduction to the Natural Geography in Shore Aren (NaGISA) project. In Patricia Miloslavitch and Eduardo Klein (eds.) Caribbean Biodiversity, the known and the unknown, DEStech publications, Inc. Lancaster, pp. 255-257.
- Caldeira, K., Akai, M., Brewer, P., Chen, B., Haugan, P., Iwama, T., Johnston, P., Kheshgi, H., Li, Q., Ohsumi, T., Portner, H., Sabine, C., Shirayama, Y. and Thomson, J. 2006. Chapter 6. Ocean Storage. In Metz, B., Davidson, O., de Coninck, H., Loos, M. and Meyer, L. (eds.) IPCC Special Report on Carbon Dioxide Capture and Storage. Cambridge University Press, Cambridge, pp. 277-318.

その他の著作

- 久保田 信. 2005. フィールド科学教育研究センター・瀬戸臨海実験所通信 第1回「風光明媚で水族館や実験所の島もあって」. 教職員情報(京都大学), 44: 1 & 8.
- 久保田 信. 2005. フィールド科学教育研究センター・瀬戸臨海実験所通信 第2回「台風の贈り物」. 教職員情報(京都大学), 45: 8.
- 久保田 信. 2005. フィールド科学教育研究センター・瀬戸臨海実験所通信 第3回「あでやかな熱帯系チョウチョウオ」. 教職員情報(京都大学), 46: 8.
- 久保田 信. 2005. フィールド科学教育研究センター・瀬戸臨海実験所通信 第4回「エチゼンクラゲ、和歌山県田辺湾に世紀の初出現」. 教職員情報(京都大学), 47: 8.
- 久保田 信. 2005. フィールド科学教育研究センター・瀬戸臨海実験所通信 第5回「またもや巨大クラゲ出現」. 教職員情報(京都大学), 45: 8.
- 久保田 信. 2005. フィールド科学教育研究センター・瀬戸臨海実験所通信 第6回「世界の動物14万種はたったの40門に分類! - 瀬戸臨海実験所水族館で動物門を観察しよう」. 教職員情報(京都大学), 49: 8.
- 久保田 信. 2006. フィールド科学教育研究センター・瀬戸臨海実験所通信. 第7回「春の使者の到来とウミガメの受難 - 2005年度最終月の3つの臨海実習 -」 教職員情報(京都大学), 50: 8.

- 久保田 信. 2005. 授業紹介 1. 「ポケット・ゼミ ―海岸生物の生活史―」(南紀白浜所在の瀬戸臨海実験所で開催). 共通教育通信, 49: 8.
- 久保田 信・深見裕伸・内田紘臣. 2005. 和歌山県田辺湾沿岸海域で 1931 年から 2005 年までに記録された造礁性イシサンゴ類(刺胞動物門, 花虫綱, 六放サンゴ亜綱)の目録. 瀬戸臨海実験所年報, 18: 32-36.
- 河村真理子・久保田信. 2005. 田辺湾のクラゲについて. 白浜 RC 週報, 第 2195 例会.
- 岸田拓士・久保田信. 2005. 紀伊半島沿岸、特に白浜沿岸に漂着・迷入するイルカやクジラ. 白浜 RC 週報, 第 2197 例会.
- 小林亜玲・久保田信. 2006. 日本海南部海域におけるカイヤドリヒドラ類(刺胞動物門、ヒドロ虫綱)の分布拡大について. 白浜 RC 週報, 第 2207 例会.
- 久保田 信. 2006. 「神秘のベニクラゲと海洋生物の歌―不老不死の夢を歌う」. 白浜 RC 週報, 第 2211 例会.
- 深見裕伸・久保田 信. 2006. 「和歌山県海域のサンゴ群集」. 白浜 RC 週報, 第 2217 例会.
- 深見裕伸. 2006. サンゴ礁関連施設探訪「京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所」. 日本サンゴ礁学会ニュースレター, 31: 8.

新聞連載記事

久保田 信. 「地球の住民たち 動物篇」連載 1-41.

- 1 胞胚様(ホウハイヨウ)動物門 サリネラ 教科書にない不思議動物, 紀伊民報 2006.1.10
- 2 平板(イタガタ)動物門 センモウアメーバヒラムシ 最も下等な多細胞動物, 紀伊民報 2006.1.17
- 3 菱形(ヒシガタ)動物門 ニハイチュウ 奇妙な子孫づくりの寄生虫, 紀伊民報 2006.1.24
- 4 直遊(チョクユウ)動物門 チョクユウチュウ 多様な動物に潜む“中生動物”, 紀伊民報, 2006.1.31
- 5 海綿(カイメン)動物門 カイメン すりつぶしても再生, 紀伊民報 2006.2.7
- 6 刺胞(シホウ)動物門 クラゲ・サンゴ・イソギンチャク 毒針持つ“胃袋動物”, 紀伊民報, 2006.2.21
- 7 有櫛(ユウシツ)動物門 クシクラゲ クラゲ食らうクラゲ, 紀伊民報 2006.2.28
- 8 扁形(ヘンケイ)動物門 プラナリア 裂かれても不死身, 紀伊民報 2006.3.7
- 9 顎口(ガッコウ)動物門 大きな顎持つ左右相称動物, 紀伊民報 2006.3.14
- 10 紐形(ヒモガタ)動物門 クリゲヒモムシ 初めて肛門持った左右相称動物, 紀伊民報, 2006.3.21.
- 11 線形(センケイ)動物門 センチュウ 全ゲノム解読の実験動物, 紀伊民報 2006.3.28
- 12 動物(ドウフン)動物門 トゲカワムシ 体に“節”つくったミニ動物, 紀伊民報, 2006.4.4
- 13 胴甲(ドウコウ)動物門 鎧をまとった深海小型生物, 紀伊民報 2006.4.11
- 14 腹毛(フクモウ)動物門 ウロコととげで覆ったメイオベントス, 紀伊民報 2006.4.18
- 15 輪形(リンケイ)動物門 ワムシ 水生の雌優勢ミニ動物, 紀伊民報 2006.4.25.
- 16 類線形(ルイセンケイ)動物門 ハリガネムシ 栄養は体表から吸収, 紀伊民報 2006.5.2
- 17 鰐曳(エラヒキ)動物門 エラヒキムシ 名前は男性のシンボル?, 紀伊民報 2006.5.9
- 18 鉤頭(コウトウ)動物門 コウトウチュウ 生涯すべてが寄生生活, 紀伊民報, 2006.5.16.
- 19 星口(ホシグチ)動物門 ホシムシ 肛門が尻にないベントス, 紀伊民報 2006.5.23
- 20 蛭虫(ユムシ)動物門 ユムシ 吻が特徴、ミミズ状動物, 紀伊民報 2006.5.30
- 21 環形(カンケイ)動物門 ケヤリムシ ゴカイやミミズが仲間, 紀伊民報 2006.6.6
- 22 軟体(ナントイ)動物門 ヤマトメリベ 多種多様な貝の仲間, 紀伊民報 2006.6.13
- 23 緩歩(カンポ)動物門 クマムシ 耐久力抜群で 100 年以上延命, 紀伊民報 2006.6.20
- 24 舌形(シタガタ)動物門 シタムシ 陸生脊椎動物が終宿主, 紀伊民報 2006.6.27
- 25 有爪(ユウソウ)動物門 カギムシ ゴカイとカニの中間型生物, 紀伊民報 2006.7.4
- 26 鋏角(キョウカク)動物門 クモやダニ、サソリが仲間, 紀伊民報 2006.7.11
- 27 甲殻(コウカク)動物門 カニ、エビなど種類いろいろ, 紀伊民報 2006.7.18
- 28 単肢(タンシ)動物門 昆虫は地球最多種の住民, 紀伊民報 2006.7.25
- 29 内肛(ナイコウ)動物門 ウミウドンゲ 水底で群体生活, 紀伊民報 2006.8.1
- 30 有輪(ユウリン)動物門 パンドラムシ 入れ子式に増えるパンドラムシ, 紀伊民報,

2006. 8. 8

- 31 箒虫(ホウキムシ)動物門 ケヤリムシに似た成体, 紀伊民報 2006. 8. 22
- 32 外肛(ガイコウ)動物門 コケムシ 植物のような群体動物, 紀伊民報 2006. 8. 29
- 33 腕足(ワンソク)動物門 2枚の殻持つ底生動物, 紀伊民報 2006. 9. 5
- 34 有鬚(ユシュ)動物門 細菌と共生で栄養確保, 紀伊民報 2006. 9. 12
- 35 毛顎(モウガク)動物門 矢のように獲物を狙う, 紀伊民報 2006. 9. 19
- 36 棘皮(キョクヒ)動物門 ウニ・ヒトデ 共通点が「5」の底生動物, 紀伊民報 2006. 10. 3
- 37 半索(ハンサク)動物門 ギボシムシ、フサカツギ 自由生活と付着生活, 紀伊民報,
2006. 10. 17
- 38 原生(ゲンセイ)動物門 アメーバ・ミドリムシ 謎深まる単細胞の仲間たち, 紀伊民報,
2006. 10. 24
- 39 尾索(ビサク)動物門 オタマボヤ 人間に近い高等な無脊椎動物, 紀伊民報,
2006. 10. 31
- 40 頭索(トウサク)動物門 ナメクジウオ “魚”もどきの高等無脊椎動物, 紀伊民報,
2006. 11. 7
- 41 脊椎(セキツイ)動物門 ヒト 背骨のある仲間たち, 紀伊民報 2006. 11. 14